

山北ゆり花温泉・交流の館「八幡」 正面玄関付近の絵画について

山北ゆり花温泉・交流の館「八幡」の正面右側に掲げてある巨大壁画は、2014年（平成26年）8月10日から17日までの1週間、東京藝術大学名誉教授の絹谷幸二氏をはじめ、同大学の卒業生や大学院生8名の手によって制作されたもので、縦1.68メートル×横3.66メートルの巨大なキャンバス3枚で構成され、山北地区の風景である「海」「山」「川」をテーマにしています。



【「海」の絵】

眼鏡岩と栗島、笹川流れの海岸線沿いに自生する岩ゆりが描かれています。



【「山」の絵】

自然の美しさ、大地の恵み、自然と人間が共に生きている風景を描き、一日の暮らしを1枚のキャンバスに描いています。



【「川」の絵】

自然豊かな山北地区の川を中心に、山北の祭りやスポーツを楽しむ人たちが力強く描かれています。



3枚の巨大壁画は正面玄関右側に掲示されています。

絹谷幸二氏について・・・

東京藝術大学を経て1971年のイタリア留学によってアフレスコ（壁画技法）をさらに深め、帰国後、歴代最年少にて画家の登龍門である安井賞を受賞。多彩な技法を駆使し、エネルギーに満ちあふれた独自の画風を確立した。現在はシュルレアリスムと抽象表現主義を総合したような画面構成に漫画的吹き出しを組み込む事で、現代的な具象画の探求を行っている。1997年には長野冬季オリンピック・ポスターの原画制作、2008年には渋谷駅の壁面にパブリック・アートを設置、2014年には文化功労者に選出され、美術と社会を結びつける幅広い活動も行っている。2021年11月、令和3年度文化勲章受章。

（絹谷幸二氏ウェブサイトより）